



日口交流

発行 : 特定非営利活動法人 日口交流協会

E-mail:nichiro@nichiro.org

Home Page <http://www.nichiro.org>

〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-14麻布台マンション401号

Tel : 03 (5563) 0626 Fax : 03 (5563) 0752



オレンブルグからのお客様

千葉 麻里

4年前の日本文化交流団で訪れたオレンブルグの国立大学日本情報センター長リュドミーラ・ドカシェンコ氏から、4月に代表団と訪日するというメールがきた。一行はオレンブルグ州政府など11名で松山市を表敬訪問した帰途に東京に滞在するという事だった。リュドミーラさん以外は東京は初めてなので一日観光したいということで、バスツアーで服部副会長が利用するKEN ドリームの伊藤氏にバスでの送迎や都内観光をお願いした。変更や細かい見積もりなどのことで何度も電話やFAXをしたが、いつも快諾してくれた。観光には留学担当の山田さんの知人で通訳ガイドの松下敬子さんが同行し、きめ細かい配慮で対応し夕方にも具合が悪くなったメンバーに病院へ付き添ってくれた。

夕方には、江守副会長が社長をしているケット科学研究所を訪問。技術部の大川恭史さんがロシア語の書かれた会社の製品説明や交流協会、ロシアとの関わりについてスライドを使って話してくれた。言うまでもないが、江守副会長はお父様はウラジオストックに赴任したことが縁でその後アイスホッケーの父と言われ、協会の会長も長年つとめられた。江守副会長ご自身もアイスホッケー部で活躍され、協会の財政危機は何度も救ってくださり、現在、会社はロシアに検査機器を輸出するなど、ロシアとの縁が深い。オレンブルグからの代表団は、州政府以外にスポーツ委員長や企業家同盟など様々な分野のメンバーがいたが、一様に強い関心を持たれ今



後一層の友好をかたく誓い合った。

社内の見学をした後、江守副会長の招待で懇意にしている寿司屋を貸し切った夕食会となった。本格的な寿司屋のカウンターで、寿司をにぎる大将と全員で乾杯。刺身が初めての方々もすっかり満足されたようで、焼酎を傾けながらよく召し上がった。そして、一人ひとり団員の皆さんがそれぞれ熱のこもった感謝の挨拶をされ、それを機に乾杯を重ねた。通訳をする内堀専務も感激していたが、どれも素晴らしい挨拶だった。

前日夜のチェックインでは疲れて厳しい顔が多かったが、この日の夜、迎えのバスに乗る皆さんの顔はすっかり満足しリラックスして楽しげだった。

翌日、早朝帰国の途につき、後日、またリュドミーラさんから丁寧な感謝のメールが寄せられた。そして、私たちはオレンブルグを再度訪問し日本文化紹介をすることを約束したのだ。
(常任理事)

お願い

NPO 日口交流協会では、ロシアでの日本の伝統文化などの紹介、国内でのロシアに関する講演会、在ロシア人とのイベント交流など幅広い活動を続けております。これらの活動を一層推進させるために皆様からのご寄付をよろしくお願い申し上げます。一口千円から、いくらでも結構です。

振込先：郵便口座 00160-9-66486 加入者名：日口交流協会
連絡先：日口交流協会事務局 Tel:03-5563-0626